

## 計画の概要

## 施策

### 第1章 計画の策定にあたって

#### 目的

- ・ヒグマによる人身被害の防止
- ・人里への出没の抑制及び農業被害の軽減

#### 背景

個体数増加傾向、人の生活域に出没多発

#### 生息状況

令和2年度 11,700頭（全道）と推定、増加傾向

#### 人身被害

R3年度 12名（死亡4名、負傷8名 R3 12月時点）

#### 農業被害

令和2年度 2億4,900万円、最多はデントコーン

（該当なし）

## 計画の概要

### 第2章 管理の推進

#### 管理目標

- ・ 人身被害の発生を可能な限りゼロにする
- ・ 人里への出没、農業被害の発生を減少させる
- ・ 地域個体群を絶滅のおそれが高まることを予防する水準以下に下げない

#### 数の調整

- ・ 問題個体(\*)の排除に向けた管理を進める  
(\*)人を恐れず人家付近等に頻繁に出没、農作物に被害を与える等、人間活動に実害を及ぼす個体、人に積極的につきまとう個体
- ・ 市街地出没、人命に危害が及ぶ可能性がある等、緊急事態発生時は出没状況等を判断し排除を優先
- ・ 農業被害や市街地出没等、従前とは異なる出没形態が増加していることから、生息状況や専門家の意見を踏まえつつ、個体数調整の可能性やあり方の検討を進める

## 施策

人里出没を踏まえ緊急時対応フローを追加

ゾーニング管理の導入の検討を開始

## 計画の概要

## 施策

### 第2章 管理の推進

#### 目標達成のための方策

#### 人身被害防止、人里への出没抑制、農業被害軽減

- **人身被害防止**
  - ・ 定期的に出没時対応の実地訓練を実施
  - ・ 都市部住民などへの正しい知識の普及啓発
  - ・ 様々な媒体を活用したヒグマ情報の周知
  - ・ 市街地出没時等の注意報、警報等の発令
- **農業被害の防止**
  - ・ 電気柵の導入促進
  - ・ 農地周辺の刈払い等、侵入経路管理の促進
- **狩猟期間の見直し**
  - ・ 残雪期に期間を設定等、導入へ具体的検討
- **出没個体の有害性に応じた対応**
  - ・ 段階判断フロー等に基づき、出没個体の有害性区分
  - ・ 有害性の区分に応じた方策の実行
- **市街地等出没時緊急対応判断**
  - ・ 市街地等で緊急対応できる判断基準の設定

#### 地域個体群存続のための方策

- ・ 推定精度向上に向け定期的モニタリング、分析

- ・ 人里出没想定訓練を実施
- ・ 普及啓発を強化
- ・ 出没情報をSNSで周知
- ・ ヒグマ注意報等を発出

- ・ 電気柵導入促進(国補助活用)
- ・ 刈り払の対策手法を啓発

春期管理捕獲の開始

人里出没を踏まえ  
緊急時対応フローを追加

広域痕跡調査、ヘアラップ  
調査の実施

# 北海道ヒグマ管理計画（第2期）と施策

## 計画の概要

## 施策

### 第3章 計画の実施に向けて

#### 被害防止対策

- ・ ゴミや農作物の管理を徹底し新たな問題個体を発生させない
- ・ ヒグマに対する正しい知識の浸透

#### モニタリング等の調査研究

- ・ 適正な保護管理に必要な科学的データの蓄積等を目的に調査研究、モニタリングの実施
- ・ 道総研等研究機関、大学、団体、市町村など関係機関と連携し実施

#### 錯誤捕獲の防止

わな設置者への指導、ヒグマ錯誤捕獲時における放獣の可否について地域における検討

#### 狩猟資源の有効活用

実態把握や有効活用のあり方について検討

#### 合意形成

行政や団体等、関係機関が連携を密にし、合意形成を図りながら施策を推進

#### 事業実施計画の策定

道はヒグマ管理計画を実施するため、事業実施計画、地域実施計画を策定

#### 計画の見直し

計画終了時、目標の達成状況の評価を実施、結果を踏まえ計画を見直す

普及啓発を強化

広域痕跡調査、ヘアトラップ調査の実施

放獣は困難、錯誤捕獲の未然防止指導

未着手

連絡協議会や訓練などを通じ連携強化

14 振興局で策定済み

(該当なし)

# 北海道ヒグマ管理計画（第2期）と施策

## 計画の概要

## 施策

### 第3章 計画の実施に向けて

#### 計画の実施体制

##### 地域連絡協議会

- ・ 関係機関の連携、情報の共有、連絡調整の円滑化のため振興局ごとに設置
- ・ （総合）振興局がコーディネーター役となって関係機関の連携促進
- ・ 出没時対応訓練の実施、地域実施計画策定等、地域対応力の強化を進める

##### 北海道ヒグマ保護管理検討会

- ・ 自然科学及び社会科学等の専門的知見に基づく計画推進のため設置

##### 各主体に期待される役割と連携

- ・ 道、研究機関、市町村、狩猟者等関係機関がそれぞれの役割を担い、連携し取り組む

##### 体制構築に向けた取組

- ・ 保護管理を担う人材、捕獲技術者、狩猟者の確保、育成、強化を進める
- ・ 地域の状況に応じた現場対応を担う実働組織のあり方等、関係者が連携して検討

- ・ 地域連絡会議の開催
- ・ 対応訓練の実施
- ・ 地域版実施計画の策定

年2回開催

研修会などにより意識の醸成

人材育成捕獲事業の実施